

① 授業から学んだこと

私が授業から学んだことは2つある。

1つ目は、教材研究が非常に重要だということである。正直、社会科は得意で、教材研究も教科書や指導書の読み込みはしていたが、生徒の興味関心を引き、主体的に考える授業を行うには教科書レベルの教材研究では全く通用せず、様々なデータや資料を読み込み、知る必要があると痛感した。担当教員に「生徒に1教えるのに教師は10知っておく必要がある」と言葉を頂いて、私は教材研究こそ、教員が授業を行っていく上で一番重要だということを痛感した。

2つ目は、授業は人を相手に行うので、同じ授業を作っている、生徒の状態や授業の時間帯で生徒の食いつきが全く異なるということである。実際に自分の失敗した体験談でいうと、生徒があまり集中できていないことに気付いていたにも関わらず、授業を始めてしまったことである。そのことにより、生徒が集中できていないのに授業の本題に入り、生徒が集中できないまま、生徒を置き去りに授業を行ってしまった。人を相手にしている以上、生徒の授業を受ける準備ができていないと感じた場合は、事前に声かけを行った、アイスブレイクを入れつつ、生徒が授業に向かうように対策を講じる必要があると感じた。

② 生徒との交流で学んだこと。

生徒との交流で学んだことは、実際様々な生徒がいて、対応が難しいことである。

実際に、よく話しかけてくれる生徒は私からも話ができるし、対応しやすかったが、一人で本を読んでいる生徒や数人の生徒だけで固まって話している生徒には声掛けをするのに時間がかかってしまった。その点で少し不公平も生まれてしまったし、気まずい雰囲気になってしまったこともあったので、その点は反省したい。また、私が授業を行うようになると話しかけてくれる生徒が増えたこともあり、授業は生徒とコミュニケーションを取るうえでも重要なツールだということがわかった。

全体通じていえることは、生徒とコミュニケーションを取るうえでいろんな引き出しを持っておくことが重要だということである。生徒の多様性を認めるにも、教師がいろいろな引き出しをもっておかないと、話を続けることもできないので、様々な引き出しを持っておくことが必要だと感じた。

③ 職員室の様子から学んだこと

職員室の様子から学んだこととしては、様々なところで情報共有がされており、生徒の一人のどんなに些細なことでもしっかり情報共有が必要だと学んだ。情報共有をしておくことで、生徒に万が一のことが起こった時でも迅速に対応できると感じた。教師は生徒の万が一に対してしっかり準備をして、いつでも対応できるような準備が必要だと学んだ。

④ 事前に立てた目標及び課題について

事前に立てた目標「生徒と積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を築くこと」に対して、私は半分達成でき、半分は達成できなかったと感じた。理由としては、よく話しかけてくれる生徒はコミュニケーションを取れたが、内気な生徒には声掛けをするのに時間がかかってしまい、早いうちから信頼関係を構築できなかったからである。しかし、実習の最後に寄せ書きを頂いたが、内気な生徒から「休み時間に話してくれてありがとう」など感謝の言葉を頂いて、やはり自分の主観で生徒に話しかけるのをあきらめるのではなく、積極的に生徒とコミュニケーションを取り、関係性を築いていくことが重要だと感じた。

⑤ 教育実習全般にわたって

教育実習をおえて、率直にとっても楽しかった。生徒と休み時間に話している時や授業中に教えている時、どうしたら生徒が興味関心を持ってくれるのか考えながら教材研究をしているときなどとても有意義な時間だった。

また、一番難しく、面白いと感じたのは「学校教育に失敗はあるけど正解はない」ということである。授業の作り方や生徒の指導の仕方など、教師によって、やり方は全く違った。それでも、教師が共通して持っていることは「生徒にはこの力をつけてほしい」であったり、「こんな大人になってほしい」と芯をもって指導していることである。この実習を通して、生徒の指導方法は違えど、生徒に対して「生徒にこの力をつけてほしい」であったり、「こんな大人になってほしい」と芯をもって生徒と接し続けることが教育の正解につながるのではないかと感じた。私もこれから教員になった際は、芯をもって生徒に接することを忘れず、日々研鑽を積んでいきたいと感じた。

⑥ その他 なんでも(箇条書き)

- ・もっと教材研究(授業準備)しておけばよかった
- ・実習始まる前にもっと教員採用試験の勉強をしておくべきだった。